

施政方針の進捗状況と評価について

目指す目標に一步踏みだせた



宮本 昭一 議員

一定の評価はできるものと考えている

町長

①については

町長は、「28年度からは本町創生のための第2ステージに入り、これまでの取り組みについては着実に実行し、成果を上げていく」としている。本年度は施政方針の中で

① 総合戦略を柱とした人口減少対策

② 魅力ある町を発信しながら産業の活性化を進める対策

③ 健康増進対策の3点を掲げているが、現時点までの進捗と評価をどのように捉えているか。

町外からの定住を推進するための定住住宅取得補助制度や、住宅家賃補助制度も効果を上げていくものと認識しており、人口減少対策としての条件整備が順調に進んでいる。

②については

販売促進活動や専門家を招いての食品加工セミナーの実施、事業所間の連携や商品の開発が進んできている。地元の農産物を活用した地域産品の開発に向けた動きも始まっている。

③については

あらゆる世代の方々が健康で活躍されるためには疾病予防が重要であり、この対策として4名の保

健師を採用し、よりきめ細やかな住民への対応が可能になった。現在のところ私が目指す目標に一步踏み出せたと考えている。



保健師による健診の様子

保健師の活動内容は

宮本議員

人生80年代を迎え、子ども高齢化がますます進行している中で、行政とし

ても様々な施策を通じてこれらのニーズに的確に対応していく必要がある。保健師が増員されたが、活動方針、活動内容が充実したものがあるか。

大幅に充実された

町長

保健指導が必要な方や、特定健診を受けていない方への訪問、課内に保健師の常駐、野方支所では保健師相談窓口を開設することができ、住民の方が相談しやすい体制が取れるようになった。昨年までと比較すると保健師の活動内容は大幅に充実されたものと考えている。

医療費の変化の動向は

宮本議員

保健師を増員して住民の健康対策などに活動あるいは保健指導をされたが、それに伴った医療費の変化が出てきているか。

縮小傾向にある

町長

現在、昨年度の医療費と比べ本年度の医療費は

縮小傾向にある。これが保健師の増員による効果であるとは明言できないが、長期的な保健師の活動により医療費に及ぼす効果は今後見えてくると考えている。

インフルエンザ予防接種の年齢拡大は

宮本議員

インフルエンザの接種が、平成27年度より19歳から64歳以下は助成対象外となった。インフルエンザの予防接種はウイルスに感染しても重症化につながらないよう、できるだけ多くの方が接種してこそ効果があると思うが、この年齢対象の拡大はできないか。

検討を重ねる必要がある

町長

インフルエンザワクチンは一般に重症化の予防効果が認められている。県内においては65歳以上のみを対象としている市町村は32市町村となっている。また、本町と同様に18歳以下を助成している

福祉避難所の設置は

宮本議員

福祉避難所は市町村が指定すると、要配慮者が相談や助言を受けられる体制づくりや滞在ができて示されている。本町において、この福祉避難所の確保の考えはないか。

協定を締結し確保した

町長

大規模災害時には必要になってくるので、12月1日付で複数の法人と協定を締結し、現在8箇所福祉避難所を確保済である。